

になってしまって、不適応をきたしている。

- ③ 吃音<sup>きつおん</sup>、肢体不自由などの身体的なものが原因になって、心理緊張がはたらき、集団場面に適応できないでいる。
- ④ 放任や、溺愛、厳格、拒否といった養育態度のまずきにより、自我の未成熟をまねき、集団の中で不安や緊張をたかめている。
- ⑤ 極端な社会性の未発達、内向的な性格、憶病などのために、集団参加に不安を感じている。
- ⑥ 過去に笑われたり、恥ずかしい思いをした等の心の外傷によって、話さないことで自分を守っている。

以上のような原因が考えられるが、これは、独自に存在するのではなく、それぞれが複雑にからみあって、緘黙状態をつくっていることが多い。

#### (4). 指導（治療）方法

緘黙の指導は、多くの場合、きわめて困難をともない終結までに長期を要することが多い。一般的には、次の指導が考えられる。

##### ① 個人遊戯療法

これは母子関係の障害からくる情緒不安を解消し、遊びを通して、過去の悪いイメージを修正し、健康的な人間観を成長させる。

##### ② 親のカウンセリング

親子関係を改善し、子供に共感できる態度をつくり出す。

##### ③ 学級内の人間関係の調整

担任教師の働きかけによって、学級内の人間関係を調整し、学級への適応をはかる。

以上のように、本人への指導だけでなく、親や学級担任の本人への働きかけも重要になる。指導の経過については、病状の面から考えると、

ア、「レポート形成期」→ イ、「行動化期」→ ウ、「発語期」と進むのがふつうである。その際、留意すべきことは、

##### ① 家庭では、

○家庭からの圧力をなくしてやる。

〈言ってはならない言葉の例〉